

# 第3章

絶滅のおそれのある  
野生生物

## 1 種の解説と項目

絶滅のおそれのある野生生物に該当した種の解説は、各分類群ごとにカテゴリー順に行いました。

それぞれの種については、可能な限り写真を掲載することに努めましたが、「市内絶滅」と「市内野生絶滅」に該当した種については写真の掲載は行わず、種の解説のみをこの項で行いました。なお、「市内絶滅」と「市内野生絶滅」はここに掲載した種のみではなく、他にも該当する種がある可能性が考えられます。

種の解説は以下のとおりです。

### ● カテゴリー

各種ごとに、千曲市、長野県、環境省のそれぞれのカテゴリーから該当するカテゴリー名を記載しました。

### ● 和名

植物については和名の横に漢字名を記載し、和名の意味が理解しやすいように努めました。

### ● 科名

植物については科名と属名を記載し、動物については科名を記載しました。

### ● 学名

植物については学名の横に種小名の意味を（ ）内に記載し、種の特徴や由来が理解できるように努めました。

### ● 種の特徴

種の形態や生態、生活形について記載しました。

### ● 生育環境・生息環境

植物は生育環境、動物は生息環境として、各種の主な生育・生息環境を記載しました。

### ● 国内や県内の分布

各種の国内における分布地と長野県内における分布地の状況を記載しました。

### ● 市内の状況と絶滅危惧（留意）要因

現地調査で確認された市内における各種の分布地、絶滅危惧の要因または留意すべき要因を記載しました。

### ● 特記事項

和名の由来、法令等の指定状況、北限、南限などを記載しました。

市内絶滅

●維管束植物

和名	ドロヤナギ (ドロノキ)	科名	ヤナギ科		
学名	<i>Populus maximowiczii</i>	長野県	指定なし	環境省	指定なし
特徴と生育環境	<p>渓谷<sup>けいこく</sup>や河原、湿地などに生える高木<sup>こうぼく</sup>。樹皮は暗灰褐色<sup>じゅひ あんはいかつしよく</sup>でそろばん玉状の裂け目があり、老木になると灰色で縦に深い溝ができます。葉裏は白っぽく<sup>じゅし ぶんびつ</sup>、樹脂を分泌するため光沢があります。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>大池周辺で生育記録がありますが（横内齋：八幡大池周辺の植物、1964）、その後確認されず、現地調査でも確認されていません。</p>				

和名	オキナグサ	科名	キンポウゲ科		
学名	<i>Pulsatilla cernua</i>	長野県	絶滅危惧 I B類	環境省	絶滅危惧 II 類
特徴と生育環境	<p>丘陵帯<sup>きゅうりょうたい</sup>～山地帯<sup>さんちたい</sup>の日当たりのよい草原に生える高さ10～40cmの多年草<sup>たねんそう</sup>。茎全体に白色の長い毛を密生し、4～5月に、先端に暗赤褐色の花を1個つけます。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>1965年に旧更埴市で採取された標本が残り、鏡台山で生育記録がありますが（更級埴科地方誌、1968）、その後確認されず、現地調査でも確認されていません。採取や生育地の自然遷移により絶滅したものと考えられます。</p>				

和名	ヘビノボラズ	科名	メギ科		
学名	<i>Berberis sieboldii</i>	長野県	絶滅危惧 I B類	環境省	指定なし
特徴と生育環境	<p>普通は丘陵帯<sup>きゅうりょうたい</sup>～山地帯<sup>さんちたい</sup>の照葉樹林内<sup>しょうようじゅりんない</sup>に生える落葉性<sup>らくようせい</sup>の小型低木で、高さは80cm以下。枝にトゲがあり、5月頃に短い枝の先に垂れ下がる数個の花を咲かせます。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>大池周辺で生育記録がありますが（横内齋：八幡大池周辺の植物、1964）、その後確認されず、現地調査でも確認されていません。</p>				

和名	ヒメビシ	科名	ヒシ科		
学名	<i>Trapa incisa</i>	長野県	絶滅危惧ⅠA類	環境省	絶滅危惧Ⅱ類
特徴と生育環境	池沼 <small>ちしやう</small> に生える1年草。ヒシに似ていますが小型で、葉の表面は光沢があり、葉の裏の脈 <small>みゃく</small> にはまばらに毛があります。果実は堅く、4本のトゲがあります。7～9月に白または淡い紅色の花を咲かせます。				
絶滅の要因と判定理由	1984年に旧戸倉町で採取された標本が残り、芝平新池 <small>しばだいらしんいけ</small> で生育記録がありますが（戸倉町誌、1991）、その後は確認されず、現地調査でも確認されていません。生育地の自然遷移 <small>しぜんせんい</small> などにより絶滅したものと考えられます。				

和名	フサモ	科名	アリノトウグサ科		
学名	<i>Myriophyllum verticillatum</i>	長野県	準絶滅危惧	環境省	指定なし
特徴と生育環境	ため池や水路などに生育する多年性の沈水植物 <small>ちんすい</small> で、葉は4～5枚が輪生し、羽のよう <small>りんせい</small> に細く裂けます。6～8月に白色の花を咲かせます。				
絶滅の要因と判定理由	1984年に旧戸倉町の三島と若宮で採取された標本が残り、旧戸倉町の用水でも生育記録がありますが（戸倉町誌、1991）、その後は確認されず、現地調査でも確認されていません。生育地の池沼開発 <small>ちしやう</small> や用水の改修により絶滅したものと考えられます。				

和名	ムシャリンドウ	科名	シソ科		
学名	<i>Dracocephalum argunense</i>	長野県	絶滅危惧ⅠB類	環境省	絶滅危惧Ⅱ類
特徴と生育環境	山地の日当たりのよい草原に生える高さ20～40cmの1～2年草または多年草。茎は四角で下向きの細い毛があり、茎の中ほどから上の葉は対生します。6～8月に茎の頂 <small>いただき</small> に青紫色 <small>あおむらさきいろ</small> のリンドウに似た花を数個咲かせます。				
絶滅の要因と判定理由	鏡台山や五里ヶ峯 <small>ほのかたい</small> の防火帯で確かな生育情報がありますが、現地調査では確認されていません。また、隣の坂城町で1975～1978年に採取された標本が残っています。生育に適した草原の管理放棄 <small>かんりほうき</small> などにより絶滅したものと考えられます。				

和名	タチアザミ	科名	キク科		
学名	<i>Cirsium inundatum</i>	長野県	指定なし	環境省	指定なし
特徴と生育環境	湿地や流れの近くに生える高さ1～2mの多年草。茎は直立し、上部で枝分かれします。葉は長さ15～25cmで、花（頭状花序）は紫色で、8～10月に上向きに1～5個咲かせます。				
絶滅の要因と判定理由	大池周辺で生育記録がありますが（横内斎：八幡大池周辺の植物、1964）、その後確認されず、現地調査でも確認されていません。				

和名	アギナシ	科名	オモダカ科		
学名	<i>Sagittaria aginashi</i>	長野県	絶滅危惧 I B類	環境省	準絶滅危惧
特徴と生育環境	池沼や湿地、水田などに生える高さ30～80cmの多年草。オモダカに似ていますが、根元に粒状の「むかご」を多数つけ、矢じり形の葉の先がオモダカは尖るのに対して、アギナシ丸みを帯びます。8～10月に白い3枚の花弁の花を咲かせます。				
絶滅の要因と判定理由	旧戸倉町の水田で生育記録がありますが（戸倉町誌、1991）、その後は確認されず、現地調査でも確認されていません。水田の圃場整備や乾田化などにより絶滅したものと考えられます。				

和名	クロモ	科名	トチカガミ科		
学名	<i>Hydrilla verticillata</i>	長野県	絶滅危惧 I A類	環境省	指定なし
特徴と生育環境	湖沼やため池、河川に生育する沈水植物。茎は水中で長く伸びてよく枝分かれします。葉は暗い緑色で3～8枚が輪生します。花期は8～10月で、雄花は開花すると離れて水面に浮きます。				
絶滅の要因と判定理由	1984年に旧戸倉町で採取された標本が残り、用水路や小川で生育記録がありますが（戸倉町誌、1991）、その後は確認されず、現地調査でも確認されていません。生育地の用水の改修により絶滅したものと考えられます。				

和名	エゾノヒルムシロ	科名	ヒルムシロ科		
学名	<i>Potamogeton gramineus</i>	長野県	絶滅危惧 I B類	環境省	指定なし
特徴と生育環境	湖沼やため池の浅い水域に生える沈水～浮葉植物。沈水葉は線形～倒披針形で柄がなく、葉の縁には細かい鋸歯があります。浮葉は長楕円形～楕円形。7～9月に緑～茶色の花を咲かせます。				
絶滅の要因と判定理由	大池で生育記録がありますが（更級埴科地方誌、1968）、その後確認されず、現地調査でも確認されていません。水質汚濁などにより絶滅したものと考えられます。				

和名	ウキガヤ	科名	イネ科		
学名	<i>Glyceria depauperata</i> var. <i>infirm</i> a	長野県	絶滅危惧 I B類	環境省	指定なし
特徴と生育環境	水路や水田などの水辺や水中に生育する多年草。茎は水の底を這って伸び、葉は幅が2～4mmで普通は水面に浮きます。小穂の長さが1～2.5cmで、外花穎（基部にある数個の鱗片状の葉）の長さは4～4.5mmです。花期は5～7月です。				
絶滅の要因と判定理由	1984年に旧戸倉町で採取された標本が残り、三島の人工池では1984年に生育が確認されていますが（戸倉町誌、1991）、生育地の人工池は現在なく、絶滅したものと考えられます。				

和名	クマガイソウ	科名	ラン科		
学名	<i>Cypripedium japonicum</i>	長野県	絶滅危惧 I A類	環境省	絶滅危惧 II類
特徴と生育環境	低山帯のスギ林などに生えるラン科植物で、茎の高さは20～40cm、縦じわの入った扇形の特徴のある葉を2枚つけます。花期は5～6月で、葉の間から伸びた茎の先に、白地に紫色の模様がある袋状の花を咲かせます。				
絶滅の要因と判定理由	1983年に旧戸倉町で採取された標本が残り、冠着山でも生育記録がありますが（戸倉町誌、1991）、その後は確認されず、現地調査でも確認されていません。採取や森林伐採などにより絶滅したものと考えられます。				

●哺乳類

和名	ニホンオオカミ	科名	イヌ科		
学名	<i>Canis lupus hodophilax</i>	長野県	絶滅	環境省	絶滅
特徴と生息環境	<p>体長は1 m前後で、尾の長さは約30cm、肩の高さは約50cm。ユーラシア中・北部や北アメリカに広く分布するオオカミの1亜種ですが、体が小さく、手足や耳が短いのが特徴です。シカなどの草食動物を群れで捕食したり、ノウサギや野ネズミ類を食べていたと考えられます。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>1905年（明治38年）に奈良県東吉野村<sup>ひがしよしのむら</sup>で若い雄の個体が捕獲されたのを最後に絶滅したと言われています。狂犬病<sup>きょうけんびょう</sup>やジステンパーなどの家畜伝染病<sup>かちくでんせんびょう</sup>、狩猟<sup>しゅりょう</sup>や駆除<sup>くじょ</sup>、生息地の開発などが絶滅の要因とされています。県内にも生息していたことは事実で、古文書への記録の他、頭骨<sup>ずこつ</sup>が上田高校に保管されているため、市域も本種の行動圏<sup>こうどうけん</sup>に含まれていたものと考えられます。</p>				

和名	ニホンカワウソ	科名	イタチ科		
学名	<i>Lutra lutra nippon</i>	長野県	絶滅	環境省	絶滅危惧 I A類
特徴と生息環境	<p>体長は60～70cm、尾の長さは40～50cm、体重は約10kg。イギリス、ヨーロッパ、東南アジア、中国、極東まで広く分布するユーラシアカワウソの日本本土亜種<sup>きょくとう</sup>で、河川の中下流域や沿岸部に生息し、魚類やエビ・カニ類などを捕食していました。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>かつては本州から九州まで広く生息していたとされ、長野県内の各地でも1930年ころまでは生息していた記録はありますが、その後の確実な記録はありません。市域を流れる千曲川も本種の生息場所、行動圏<sup>こうどうけん</sup>に含まれていたものと考えられます。</p>				

●鳥類

和名	チゴモズ	科名	モズ科		
学名	<i>Lanius tigrinus</i>	長野県	絶滅危惧 I A類	環境省	絶滅危惧 I A類
特徴と生息環境	<p>全長は約19cm、翼長<sup>よくちやう</sup>は8～9 cm。雄の頭部は灰色で背面は赤褐色<sup>せきかつしよく</sup>、嘴<sup>くちばし</sup>から眼の後ろにかけての黒色が目立ちます。雌は目先が白く、脇腹に褐色の横縞<sup>よこしま</sup>があります。低地から低山の広葉樹林<sup>こうようじゅりん</sup>やアカマツ林などに生息し、昆虫類やクモ類、ミミズ、両生類なども食べます。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>中国東部から朝鮮半島などを経由し、日本には5月上旬頃に本州中部から東北地方にかけて局所的<sup>きょくしよてき</sup>に渡来します。千曲市でも30年ほど前に倉科の民家の庭先で3年間確認されましたが、生息環境が変化したためか、その後は全く確認できていません。</p>				

和名	セッカ	科名	ウグイス科		
学名	<i>Cisticola juncidis</i>	長野県	絶滅危惧 I A類	環境省	指定なし
特徴と生息環境	全長は約12cm、翼長約5cm。体の上面は黄褐色で、黒い縦斑があり、下面は白く、脇腹は褐色味があります。主に丈の低いイネ科の草本が茂る草原に生息し、昆虫類やクモ類などを食べます。				
絶滅の要因と判定理由	アフリカ、地中海沿岸、インド、東南アジア、オーストラリア北部などに広く分布、国内では秋田県から沖縄県にかけて分布し、九州より北では夏鳥として渡来します。千曲市でも千曲川などで10年ほど前までは生息していましたが、その後の記録はありません。河川敷の公園や運動場整備、草原の消失などで市内では見られなくなったものと思われます。				

## ●昆虫類

和名	オオルリシジミ	科名	シジミチョウ科		
学名	<i>Shijimiaeoides divinus barine</i>	長野県	絶滅危惧 I B類	環境省	絶滅危惧 I 類
特徴と生息環境	シジミチョウの中でも比較的大型で、前翅長は約20mmです。雄の翅は外側の黒い帯を除いて瑠璃色で、雌は前翅、後翅の中央付近に黒い点があります。年に1回、6月頃に成虫が現れ、幼虫はマメ科のクララのみを食草とします。				
絶滅の要因と判定理由	生育場所の自然遷移による森林化、チョウマニアによる採取、圃場整備による土地の改変などにより全国的に減少し、長野県内でも現在は東御市と旧堀金村（現在の安曇野市）のみで人工的な増殖が試みられています。千曲市でも1979年以前の生息記録はありますが、それ以降の生息確認はなく、絶滅したものと考えられます。				

和名	タガメ	科名	コオイムシ科		
学名	<i>Lethocerus deyrollei</i>	長野県	絶滅	環境省	絶滅危惧 II 類
特徴と生息環境	日本で最大の水生昆虫で体長は60mm前後。頭は三角形で、複眼は飛び出し、前脚は鎌に似た形で鋭い爪があり、オタマジャクシやカエル、小魚などを捕らえて消化液を送り込み、溶けた体液状の肉を食べます。				
絶滅の要因と判定理由	本州～九州、沖縄県、台湾、中国などに分布し、県内でも1960年以前は各地の池や田で普通に見られましたが、農薬に非常に弱く、千曲市を含めて、1960年代にはほぼ絶滅したと考えられます。				

## ●クモ類

和名	アカオニグモ	科名	コガネグモ科		
学名	<i>Araneus pinguis</i>	長野県	準絶滅危惧	環境省	指定なし
特徴と生息環境	<p>体長は雌が15～22mm、雄が9～12mm。雌は未成熟で黄色、成熟すると丸く大きな腹部が赤変します。腹部には子グモのときから白色の斑紋が多数あります。雄は赤変しません。標高700～800m以上の草原や開けた林縁部に生息し、低い位置に垂直円網を張ります。成熟期は8～9月で、秋に草の根元や石の下などに産卵します。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>過去の記録はありませんが、1975～1978年に坂城町の和平で多産していた記録があるので、隣接する沢山の開拓地にも当時は生息していたと推量できます。現在は両開拓地ともに全く生息せず、大池周辺や冠着山などの他の高地でも生息していません。草原や林縁部の機械による刈り払い、畑に散布する殺虫剤により絶滅したと考えられますが、他地域でも生息数が減っているため、別の要因も考えられます。</p>				

## 市内野生絶滅

### 魚類

和名	ウナギ	科名	ウナギ科		
学名	<i>Anguilla japonica</i>	長野県	野生絶滅	環境省	情報不足
特徴と生息環境	<p>体は細長く、全長は最大で約100cm。背側は暗色で腹側は黄白色、背びれから尻びれまでが連続しています。産卵場はフィリピン沖で、仔魚はシラスウナギと呼ばれ、日本では10月～6月にかけて河川を遡ります。海、河川の下流域～中流域、湖沼に生息し、夜行性で主に水生昆虫類や小魚、貝類、エビ類などを食べます。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>国内では太平洋側は北海道の日高地方以南、日本海側では石狩川以南の日本各地に分布し、県内では県下全域の河川中下流域と湖沼に分布しますが、全てが放流魚と考えられます。更埴漁協でも毎年千曲川へ放流を行っています。ダムの建設などにより河川への遡上、降下環境が悪化し、野生の個体は生息しないと考えられています。</p>				

和名	アユ	科名	アユ科		
学名	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	長野県	野生絶滅	環境省	指定なし
特徴と生息環境	<p>全長は10～30cm。背側は青みがかったオリーブ色、腹側は銀白色、背びれと尾びれの間に脂びれがあります。成魚は秋に河川の中下流域で産卵し、孵化した仔魚はすぐに海へ下り、春に群れをなして河川を遡上します。河川の中流域で定着した後、藻類を食べ、なわばりをつくります。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>国内では北海道西部以南の日本各地に分布し、県内では各地の河川中流域に分布しますが、全てが放流魚と考えられます。更埴漁協でも毎年千曲川へ放流を行っています。ダムの建設などにより河川への遡上、降下環境が悪化し、野生の個体は生息しないと考えられています。</p>				

和名	サケ	科名	サケ科		
学名	<i>Oncorhynchus keta</i>	長野県	野生絶滅	環境省	指定なし
特徴と生息環境	<p>全長60～70cm。背側は暗い青色、腹側は銀白色、背びれの後ろに脂びれがあります。成魚は秋に海から生まれた河川を遡上して、地下水の湧水域で産卵します。孵化した仔魚は翌年の春に海へ下ります。</p>				
絶滅の要因と判定理由	<p>国内の日本海側では九州北部以北、太平洋側は利根川以北の河川に遡上し、県内では千曲川へ稀に遡上します。近年では2010年10月20日に上田市の千曲川で雌の個体がヤナで確認されています。ダムの建設などにより河川への遡上、降下環境が悪化し、野生での再生産（産卵、孵化）は確認されていません。</p>				

## 2 絶滅のおそれのある野生生物

平成20年（2008年）から平成22年（2010年）にかけて行った維管束植物および動物の現地調査により、千曲市内で生育や生息が確認された種は2,631種に及びました。

このうち、何らかの影響により、生育や生息環境が変化し、その生存が危ぶまれている種は310種でした。

これは、私たちの千曲市に生育や生息する動植物の約9種類に1種類にあたります。

次頁より、絶滅のおそれのある野生生物について説明します。



①維管束植物



絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

# チャセンシダ

【茶筌羊歯】  
*Asplenium trichomanes* (細くて薄い)

チャセンシダ科 チャセンシダ属



生育地は礫地の崩落地で、4～5個体のみの生育です。  
生育地の崩落、自然遷移による絶滅が危惧されています。

### 特記事項

和名は、茎が束生するようすが抹茶を点てる茶筌に似ているため、とされています。

### 種の特徴

常緑のシダ植物で、10～30cm程度の茎が束生します。  
葉質は薄い紙質で、葉柄は紫褐色から黒褐色で翼がありません。中軸も紫褐色で、両側に狭い翼があります。

### 生育環境

岩の上や石垣に生育しています。

### 国内や県内の分布

北海道から九州に分布。県内は中部・南部に多く、北部では少ないです。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

森地区の風穴の一箇所のみで確認されています。

絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

# タカネサトメシダ

【高嶺里雌羊歯】  
*Athyrium pinetorum* (針葉樹林の)

メシダ科 メシダ属



自然遷移、地形の改変による絶滅の危険性があります。

### 特記事項

和名はサトメシダに似ているが、高い山に生育するという意味です。本来は亜高山帯に生育する種ですが、風穴の影響でこの地にも出たものと考えられます。

### 種の特徴

夏緑性のシダ植物で、葉は30～40cmで三角形状に生育します。小型のサトメシダという感じですが、最下小羽片がやや外先に出ることで内先に出るサトメシダと区別できます。

### 生育環境

高地の湿潤な林床や沢筋に生育します。

### 国内や県内の分布

本州から四国（太平洋側に偏る）に分布。県内は全県の亜高山帯（標高1500～2300m）に分布します。日本固有種です。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

森地区の夕日山林道沿いの標高530mの山地内で地下から冷気が吹き上げる風穴と呼ばれる地帯に1～2株生育しています。



絶滅危惧 I A類

長野県：絶滅危惧 I B類 環境省：準絶滅危惧

# オオミスミソウ

【大三角草】  
*Hepatica nobilis* var. *japonica* f. *maguna*  
(気品ある) (日本の) (大きい)

キンポウゲ科  
ミスミソウ属



### 種の特徴

多年草で、長い柄のある根出葉をだします。葉は三角形で、3つに深く切れ、越冬します。花期は3～4月で、一本の花茎に1個の花をつけます。花の直径は約1.5～2cm、色は変異がありますが、千曲市産は白いです。草丈は10～15cm程度。

### 生育環境

落葉広葉樹林下や山地の樹陰に生育します。

### 国内や県内の分布

本州（中部日本海側）に分布、県内は北部に分布します。日本固有種です。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

磯部・倉科地区と冠着山に分布しています。

この分布地の様子は林内の露出した崩落地で、自然遷移、土砂の崩落などによる絶滅が懸念されます。個体数はそれぞれの分布地で若干違います。1株ずつ点在したり、およそ30m<sup>2</sup>内に密生したりしています。

### 特記事項

別名雪割草とも言いますが、ユキワリソウ（サクラソウ科）は別種です。ミスミソウは県の南部に分布。

絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

# セリバオウレン

【芹葉黄連】  
*Coptis japonica* var. *dissecta* (日本の) (多裂した)

キンポウゲ科 オウレン属



上：雄花  
下：果実

### 種の特徴

常緑の多年草で、羽状の葉がセリの仲間の葉に似ています。雌雄異株で、花の形状も異なります。花期は3～4月で、花径は1～1.5cmで、花後は花茎が著しく伸長し、15cmくらいだった丈が40cm程度まで伸びます。

### 生育環境

針葉樹林下に生育します。

### 国内や県内の分布

本州、四国に分布、県内は全県に分布します。日本固有種です。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

倉科地区1箇所だけに生育しています。スギ林の中に約50m×100mに群生していますが、動物（シカなど）の被食圧で個体数減少の危険性があります。

### 特記事項

和名は葉がセリの葉に似るという意味ですが、オウレンは薬用植物の一種で、その漢名の黄連に基づいたものです。



絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ユリワサビ

【百合山葵】  
*Wasabia tenuis* (細い)

アブラナ科 ワサビ属



採集や踏みつけ、林内整備による減少が危惧されます。

特記事項

和名は葉が枯れても葉柄の基部がふくらんで残り、その様子がユリの鱗茎を思わせ、香味はワサビに似ていることからこの名があります。

種の特徴

草丈が10~20cmの多年草で、ワサビより全体的に小型です。花期は3~5月で、茎を伸ばして疎らに白い十字状の花を咲かせます。

生育環境

山地のやや湿気の多い樹林下に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布しますが分布地は稀です。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山の約100m<sup>2</sup>の範囲のみに群生しますが、現地調査ではこの生育地以外では確認されていません。

絶滅危惧 I A類

長野県：絶滅危惧 II類 環境省：準絶滅危惧

タコノアシ

【蛸の足】  
*Penthorum chinense* (中国の)

ユキノシタ科 タコノアシ属



上：花期 下：果実期

種の特徴

川岸などの湿地に生える多年草で、茎は枝を分けず直立します。8~9月に放射状に数本の枝が出て、その内側に緑白色の花が並んでつきます。秋には赤く紅葉し、名前の通りタコの足のように見えます。草丈30~100cm。

生育環境

洪水時には流されそうな不安定な砂地に生育しています。

国内や県内の分布

本州（関東以西）、四国、九州に分布、県内は全県に分布しますが少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

八幡の千曲川河畔の砂州に生育しています。30個体内外ですが、個体数の変動が激しく、洪水などの自然災害や自然遷移による減少、絶滅が懸念されています。

特記事項

別名としてサワシオン（沢紫苑）の名もありますが、ほとんど使われていません。



絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

# フジキ

【藤木】  
*Cladrastis platycarpa* (大きな果実の)

マメ科 フジキ属



上：枝の一部 下：花

### 種の特徴

落葉高木で、冬芽は白い膜質状の袋に包まれ、黒色です。葉はフジに似ており、6月に枝先に短い穂状の白い蝶形花をつけます。果実は広線状で、両側に翼があります。高さはおよそ10～15m程度になります。

### 生育環境

山地に生育します。

### 国内や県内の分布

本州（福島県以南）、四国に分布、県内は全県に分布しますが、少ないです。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

森・桑原地区の2箇所を確認、道路脇の崖地、林縁部に生育していますが、大木は2個体で、他には4～5個体の幼木があります。土砂の崩落や森林整備などによる絶滅の危険性があります。

### 特記事項

和名はフジによく似た木という意味です。花は数年に1度しか開かず、2009年は花を見ませんでした。2010年に多くの花をつけました。別名をヤマエンジュともいいます。

絶滅危惧 I A類

長野県：準絶滅危惧 環境省：絶滅危惧 II類

# オオヤマカタバミ

【大山酢漿草】  
*Oxalis obtriangulata* (倒三角形の)

カタバミ科 カタバミ属



### 種の特徴

多年草で、倒三角形の葉が特徴です。葉の上縁は左右ほぼ一直線になります。4月頃白色の花径約3cm程度の花を開きます。内側に紫紅色の筋があり、下向きに咲きます。

### 生育環境

山中の木陰、比較的暗い湿性の林下に生育します。

### 国内や県内の分布

本州（中部）、九州に分布し、県内は中部、東部に分布しています。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

倉科地区の一箇所のみで、道路沿いの暗い針葉樹林下に10数個体生育しています。踏みつけや道路の拡張整備、森林整備などによる絶滅の危険性があります。

### 特記事項

和名は、山に生える大型のカタバミの意です。カタバミは酸味があるため、スイモノグサとも言われます。



絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

# リンドウ

【竜胆】

*Gentiana scabra* var. *buergeri* (ざらついた) (採集家ブリュゲルの)

リンドウ科

リンドウ属



## 種の特徴

多年草で葉は対生して細長く、縁に細い突起があります。草丈は20~100cmで、9~11月に、釣鐘型で長さ4~5cmの紫~青紫色の花を咲かせます。花は日の当たるときに開きます。

## 生育環境

低山帯の日当たりのよい草地に生育します。

## 国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布する日本固有種で、県内では全県下にわたり分布します。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山に3~5個体生育しています。採取、草地の手入れ不足、自然遷移による減少が懸念されます。

## 特記事項

長野県の県花。和名は竜胆に由来するといわれています。竜胆は薬用とする根の漢方名です。

絶滅危惧 I A類

長野県：絶滅危惧 I A類 環境省：指定なし

# イヌムラサキ

【犬紫】

*Lithospermum arvense* (畑地生の)

ムラサキ科 ムラサキ属



## 種の特徴

越年草で、茎はまっすぐ立ち上がり、上方で枝分かれます。葉は厚く、葉柄がなく互生します。葉全体に剛毛が寝て生えています。4~6月頃、白、薄青色、淡紫色の5弁の花をつけます。花径は5mm以下で、草丈は30cm程度です。

## 生育環境

乾いた草地や丘陵地の草原に生育します。

## 国内や県内の分布

本州から九州で、県内は中部、南部に分布し、東部では絶滅。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

森地区の2箇所に生育します。畑の土手や神社の

ケヤキ林下の乾燥地に群生しています。除草剤の散布や草刈り等による個体数の減少が懸念されます。

## 特記事項

和名の「イヌ~」とは、「にせの」という意味で、ムラサキと同属ですが、紫色の色素が無く、染料にならないためこの名がつけました。



絶滅危惧 I A類

長野県：準絶滅危惧 環境省：絶滅危惧 II類

## ゲンバイツル

【單配蔓】  
*Veronica onoei* (学者小野氏の)

ゴマノハグサ科 クワガタソウ属



## 種の特徴

多年草で、茎は地上を這います。葉は対生し、短い葉柄があり、円形です。長さは1.5～3cm程度で、やや厚く光沢があり、細かい鋸歯があります。花期は7～8月、花は直径8mmほどで、青紫色です。果実は蒴果で、扁平型、上部がややへこむ軍配型をしています。

## 生育環境

高原の礫地に生育します。

## 国内や県内の分布

本州（長野県、群馬県）に分布、県内は中部、東部。日本固有種です。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

大池1箇所<sup>ふ</sup>に生育しています。生け垣の土手のような草地に数個体生育しています。踏みつけや草地の管理放棄などが絶滅の要因と考えられます。

## 特記事項

和名は果実の形からつけられています。別名は葉の形からマルバクワガタともいいます。

絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## マツムシソウ

【松虫草】  
*Scabiosa japonica* (日本の)

マツムシソウ科 マツムシソウ属



## 種の特徴

越年草で、茎はやや硬く、対生して分枝します。葉も対生し、羽状に分裂します。8～10月頃薄紫色の頭花を開きます。花径2.5～5cmで外側の裂片が発達しています。草丈はおよそ60～90cm。

## 生育環境

日当たりのよい山地の草原で生育します。

## 国内や県内の分布

北海道から九州。県内は全県（標高1000m以上）で日本固有種です。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

五里ヶ峯、三峯山、大池の日当たりのよい草地に生育しています。各地で数個体生育。草地の減少や自然遷移が個体数の減少の要因です。

## 特記事項

和名は仏具の「まつむし」という鉦に花の形が似ているからとされています。



絶滅危惧 I A類

長野県：絶滅危惧 II類 環境省：指定なし

## ウスギタンポポ

【薄黄蒲公英】  
*Taraxacum shinanense* (信濃産の)

キク科 タンポポ属



### 種の特徴

多年草で、葉、萼は淡緑色。苞にひれがあるのが特徴です。4～5月頃薄い黄色の花を咲かせます。草丈は15～30cmになります。

### 生育環境

人里近くの日当たりのよい草地や道ばたに生育します。

### 国内や県内の分布

北海道から本州に分布、県内では北部を中心に分布します。日本固有種です。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

森地区の一カ所。沢山川上流域の林縁の草地に2個体のみ生育しています。林道整備や過度の草刈りによる個体減少の危険性があります。

### 特記事項

和名は薄い黄色の花の咲くタンポポの意です。花が淡黄色で、ウスジロシナノタンポポに似ていますが、総苞外片が長く、小さな角状突起をもっていることで区別できます。

絶滅危惧 I A類

長野県：絶滅危惧 II類 環境省：絶滅危惧 II類

## ミズオオバコ

【水大葉子】  
*Ottelia alismoides* (ヘラオモダカ科に似た)

トチカガミ科 ミズオオバコ属



農薬の使用や耕作放棄による減少が懸念されます。

### 特記事項

和名は水中に生えるオオバコの意味ですが、オオミズオオバコと2種に分ける考え方があるほど変異に富んだ植物です。

### 種の特徴

一年草の沈水植物で、水中にオオバコに似た長さ10～30cmの葉を広げることからこの名があります。花茎は5～35cmで、8～10月に花径約3cmの淡い紅色の3弁の花を水面に咲かせます。

### 生育環境

水田や溜池、溝に生育します。

### 国内や県内の分布

本州から九州に分布する日本固有種です。県内では全県下にわたり分布します。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

おぼろげな棚田と寂しい無農薬水稲の水田に生育しますが、株数は極めて少ないです。



絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## カズノコグサ

【数の子草】

*Beckmannia syzigachne* (もみがらのくっついたような)

イネ科 カズノコグサ属



ほどの用水の水際に4～5株生育しています。  
自然遷移、用水の整備などによる絶滅が懸念されます。

## 特記事項

和名は小穂が二列に並んで付く姿がニシンの卵（数の子）によく似ているため、この名があります。

## 種の特徴

1～2年生の草本植物で、高さは30～80cm、茎は太くてやわらかく、6～7月頃に花が咲きます。花序は長さ15～25cmになり淡緑色の小穂を多くつけます。昔、水田に多量に発生し、“こじきごめ”と言って食用にもしました。水湿地に生育する習性があり、ミノゴメの名もあります。

## 生育環境

水分の多い水田や畦、川原の水たまり周辺などに生育します。

## 国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内では北部、中部、南部で少ないです。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

川東の用水（東小学校周辺）の幅3m深さ1.5m

絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## メガルカヤ

【雌刈萱】

*Themeda triandra* var. *japonica* (三雄すいの)(日本の)

イネ科 メガルカヤ属



## 種の特徴

多年生の草本植物で、高さは70～100cmです。9～10月に花（穂）をつけます。小穂は6個ずつ集まって、一つの穂を作ります。そのうち5個は雄性で長い芒のある一個が結実します。

## 生育環境

川原や乾いた草地、田畑の土手で、草刈りの行なわれている場所に多く生育しています。

## 国内や県内の分布

本州から沖縄に分布、県内は全県の丘陵帯から低山帯にかけての人里に分布しています。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

小坂山と一重山の草地や山の尾根に1×1.5m以内に密生しています。自然遷移や周辺の草刈りによる絶滅の危険性があります。

## 特記事項

和名は屋根を葺くために刈り取る草（カヤ）のうちのオガルカヤに対しての名前です。



## 絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：絶滅危惧 I A類

## シロテンマ

【白天麻】

*Gastrodia elata* f. *pallens* (背の高い) (淡白色の)

ラン科 オニノヤガラ属



## 種の特徴

茎の高さ40~100cmの腐生植物です。オニノヤガラの品種で、葉緑素がなく、花、茎ともに淡い黄白色です。7~8月に茎の上部に10個内外の壺形の花を付けます。

## 生育環境

低山帯の落葉樹林内や林縁に生育します。

## 国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布しますが稀です。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

森地区で1株だけ確認しています。採取や生育地の自然遷移による絶滅が懸念されます。

## 特記事項

腐生植物のため、毎年同じ場所には出現しません。和名は白味を帯びたオニノヤガラという意味で、オニノヤガラとは真っ直ぐな茎を鬼の使用する矢になぞらえたものです。写真は開花した後の個体です。

## 絶滅危惧 I A類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## ジンバイソウ

【神拝草】

*Platanthera florentii* (採集家フロレントの)

ラン科 ツレサギソウ属



## 種の特徴

多年草で、茎の高さは20~40cmで、葉の縁は波打っています。8~9月に茎の上方に5~10個の淡緑色の花をつけます。距は下方に湾曲し長さは1.5~2cmになります。

## 生育環境

深山の山中の樹林下に生育します。

## 国内や県内の分布

北海道から九州に分布します。県内は全県下に分布していますが、個体数は少ないです。日本固有種です。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

大林山上部の一か所で林に囲まれた登山道の草地に20~30個体で一群を形成しています。踏みつけ、自然遷移、採取による絶滅の恐れがあります。

## 特記事項

和名の意味は全く不明ですが、別名をミズモラン（水面蘭）といい、葉の強い光沢を水面の光具合にたとえたものと言われています。



# サンショウモ

【山椒藻】  
*Salvinia natans* (水に浮かぶ)

サンショウモ科 サンショウモ属



### 種の特徴

一年生で、暖地の水性シダ植物です。水面を浮遊します。一株は全長7~10cmで、葉は密生し、三輪生、対生につきます。葉の表面は短毛のある多数の突起が密生し、裏面は短毛が生え、これが水をはじきます。葉の一枚は楕円形で、長さは1cmほどです。

### 生育環境

湖沼や水田で生育します。

### 国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布、県内は全県に分布がありますが、減少傾向です。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

市内では、八幡、寂蒔の耕地整備の進んでいない水田に分布しています。3~4枚程度の水田に

散在しています。農業使用や水田埋め立て、耕作放棄による絶滅の危険性があります。

### 特記事項

和名は、葉の並び方がサンショウの葉に似ていることから、この名があります。

# ハシバミ

【榛】  
*Corylus heterophylla* var. *thunbergii*  
(異種の葉のある) (植物学者ツェンペリー)

カバノキ科 ハシバミ属



### 種の特徴

落葉低木で、3~4月頃、雄花が開花し、その後雌花が開きます。秋には堅果(1.5cm程度)が実ります。

地下の匍枝で増えるため、群落を作りやすいです。先土器時代より、果実は食用として利用されていたようです。樹高は2~3mです。

### 国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内は全県ですが、北部の分布は少ないです。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

大池、平沢池の2箇所、2個体のみ確認しています。林縁の低木林内に生育しています。池周辺の整備や土手の修復の際の刈払いが絶滅要因です。

### 特記事項

和名は葉柴実の意味とも言われますが、葉がオヒョウに似ていることから、別名オヒョウハシバミとも呼ばれます。



上：本体 下左：雌花 下右：雄花

絶滅危惧 I B類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

# タムシバ

【田蟲葉】  
*Magnolia salicifolia* (柳のような葉)

モクレン科 モクレン属



上：樹形 下：花

## 種の特徴

落葉高木で、花は4月葉が出る前に開花し、花径約10cmくらいの大きな白色の花を開きます。葉の裏は白いです。  
 日本海側では低木状ですが、太平洋側では高木になります。樹高はおおよそ10m程度です。

## 生育環境

山地中腹の樹林内に生育しています。

## 国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内は、北部、中部、南部に分布しています。日本固有種です。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

大林山、八頭山、八王子山、佐野に分布しています。  
 山地帯の落葉広葉樹林内で20個体内外あります。間伐などの森林整備により、個体数の減少が懸念されます。

## 特記事項

別名のカムシバとは葉を噛むと甘味と香気があるためとされています。和名のタムシバは、このカムシバが転化したものと言われています。

絶滅危惧 I B類

長野県：準絶滅危惧 環境省：指定なし

# フクジュソウ

【福寿草】  
*Adonis ramosa* (枝分かれした)

キンポウゲ科 フクジュソウ属



## 種の特徴

株となる多年草で、早春一番に開花し、夏には枯れる代表的な春植物です。草丈は10~30cmで、3~4月に、一つの茎に一つの黄色の花を付けます。

## 生育環境

山地帯の樹林下や草地に生育します。

## 国内や県内の分布

北海道・本州・四国に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

土口、あけぼの峠、坊城平、高雄山に分布しています。川西地区に生育地が多く、生育地によっては大きな群落を形成しており、早春の晴天下で見る満開の景色は見事です。  
 採集や踏みつけによる減少が危惧されます。

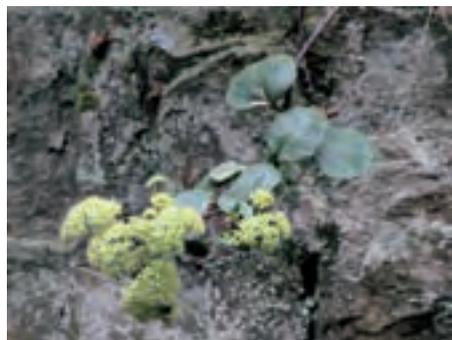
## 特記事項

和名は、新年を祝う花として元旦に用いるので祝福してこの佳い名がついたと言われます。別名をガンジツソウ（元日草）ともいいます。

絶滅危惧 I B類

長野県：絶滅危惧 II類 環境省：指定なし

## チチッパベンケイ

【乳葉弁慶】  
*Sedum sordidum* (暗色の)ベンケイソウ科  
ムラサキベンケイソウ属

上：花 下：葉裏

## 種の特徴

草丈は20～30cmほどの多年草で、茎は斜めに伸び、葉裏とともに赤紫色を帯びるのが特徴です。花期は8～10月で、美しい淡い黄緑色の花を密につけます。

## 生育環境

山地の岩場、稀に樹上に生育し、多雪地に多いです。

## 国内や県内の分布

本州（中部地方以北）に分布し、県内では北部、中部、東部に分布します。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

沢山川沿いのごく限られた岩場に生育し、株数は10～20個体です。生育地の自然遷移による減少が懸念されます。

## 特記事項

「チチッパ」は葉が肉質で乳液が出るような感じから名付けられたと言われています。

また、汚れた葉のベンケイソウ（弁慶のように強い草）であろうという別説もあります。

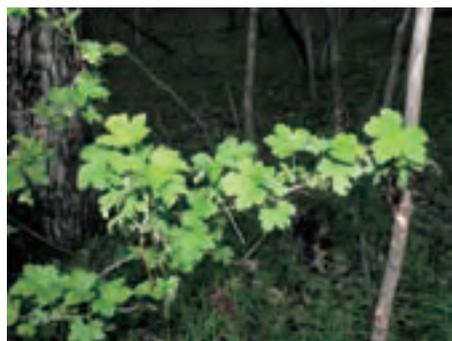
絶滅危惧 I B類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## ヤブサンザシ

【薮山樫子】  
*Ribes fasciculatum* (東になった)

スグリ科 スグリ属



上：枝の一部 下：花

## 種の特徴

山野に稀に生える落葉低木です。雌雄異株で、高さ1mほどになり、若枝には軟毛が生え、4月ごろ黄緑色の小さな花をつけます。秋に、果実が赤く熟します。

## 生育環境

落葉広葉樹林の林床、林縁部に生育します。

## 国内や県内の分布

本州（関東地方以西）、四国、九州で分布、県内は全県に分布しますが少ないです。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

岩井堂山一箇所のみです。水分の少ない傾斜地に生育しています。2～3個体（1個体は株状）で生育していますが、森林の整備、下草刈り、自然遷移により絶滅の危険性があります。

## 特記事項

和名は薮に生えていて、バラ科のサンザシに似ていることからこの名があります。



絶滅危惧 I B類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## シウリザクラ

【アイヌ語のため漢字不明】  
*Prunus ssiori* (アイヌ語のシオリ「シュ・ニ」「苦い木」からの転化)

バラ科 サクラ属



## 種の特徴

落葉高木で、高さは10~15mになります。樹皮は黒紫色で、鱗片状にはがれます。ウワミズザクラによく似ていますが、葉の基部は開き、縁の鋸歯は細かく先は芒状にとがります。5月、葉の出たあと、15~20cmの総状花序に白い花を多数つけます。

## 生育環境

山地の川沿いや谷間に生育しています。

## 国内や県内の分布

北海道、本州（隠岐島、中部地方以北）に分布、県内は全県下ですが、個体数は少ないです。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

佐野川上流の沢状地のナラ林内に3~4個体と極めて少ない生育状況です。林内整備、自然遷移などが絶滅の要因となっています。

## 特記事項

和名も学名もアイヌ語をそのまま採用したとされ、意味は不明です。別名はミヤマイヌザクラ、ミヤマウワミズザクラなどがあります。

絶滅危惧 I B類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## ヒメゴヨウイチゴ

【姫五葉莓】  
*Rubus pseudo-japonicus* (日本種に似たもの)

バラ科 キイチゴ属



## 種の特徴

つる性の草本状落葉低木です。草丈10~15cm程度で鳥足状の5小葉をつけ、6~8月に咲く花は白色です。果実は熟すと紅くなり、トゲが全く無いので、トゲナシゴヨウイチゴとも呼ばれます。

## 生育環境

亜高山帯の針葉樹林内に生育します。

## 国内や県内の分布

北海道、本州（中部地方以北）に分布、県内は全県ですが、個体数は少ないです。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

大林山中腹（標高900m地点）の岩の多い低木林内に5~6株生育しています。自然遷移、登山道の整備による個体数の減少が懸念されます。

## 特記事項

和名は5小葉を付けるトゲのないかわいいイチゴという意味です。

## イヌハギ

【犬萩】  
*Lespedeza tomentosa* (密に細綿毛のある)

マメ科 ハギ属



れています。

## 特記事項

普通のハギに比べ、鑑賞価値が少ないというところから、この名がつけられたようです。

## 種の特徴

半低木状の多年草です。茎は直立しています。葉、茎ともに黄褐色の軟毛が密生し、長細い托葉があります。花は7～9月に1cm以下の白い花が咲き、果実にも軟毛が密生します。草丈は1～1.5mです。

## 生育環境

日当たりの良い草地や、道路脇の砂地など。また河原や海に近い砂地に生育します。

## 国内や県内の分布

本州から沖縄まで分布し、県内は全県に分布しています。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

磯部、上山田の路傍に30個体程度生育しています。刈り払いや自然遷移による個体数の減少が懸念さ

## マキエハギ

【蒔絵萩】  
*Lespedeza virgata* (枝のある)

マメ科 ハギ属



## 特記事項

和名は細かい花柄が直線的のびている様子が蒔絵の筆法に似ているため名付けられたとされています。

## 種の特徴

半低木状の多年草です。茎は多少束生し枝は細く分枝します。高さ30～60cmになります。花は通常2個並び、小蝶形花で、基部付近には赤斑があり、先端がとがります。花は8～9月に開きます。

## 生育環境

丘陵地から低山帯の日当たりのよい路傍や草原に生育します。

## 国内や県内の分布

本州から沖縄まで分布、県内は全県に分布しています。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

更級・上山田地区の日当たりのよい草地や林縁に生育しています。個体数は20個体以内で、刈り払いや自然遷移による絶滅が危惧されます。

# カジカエデ

【梶楓】  
*Acer diabolicum* (大きくて荒々しい)

カエデ科 カエデ属



### 種の特徴

落葉高木です。雌雄異株で、4～5月に紅色をおびた淡緑色の花をつけます。葉は単葉で対生し、葉身はほぼ五角形で、葉の基部から5本の掌状脈がでています。

### 生育環境

山地の林内に生育します。

### 国内や県内の分布

本州（宮城県以南）、四国、九州に分布し、日本海側には少ないです。県内は東部、南部に分布します。日本固有種です。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

羽尾地区の一箇所のみです。県内の北限に近いと考えられます。谷筋の針葉樹林下で生育し、1個

体のみの確認です。森林の整備や下草刈りにより絶滅する危険性があります。

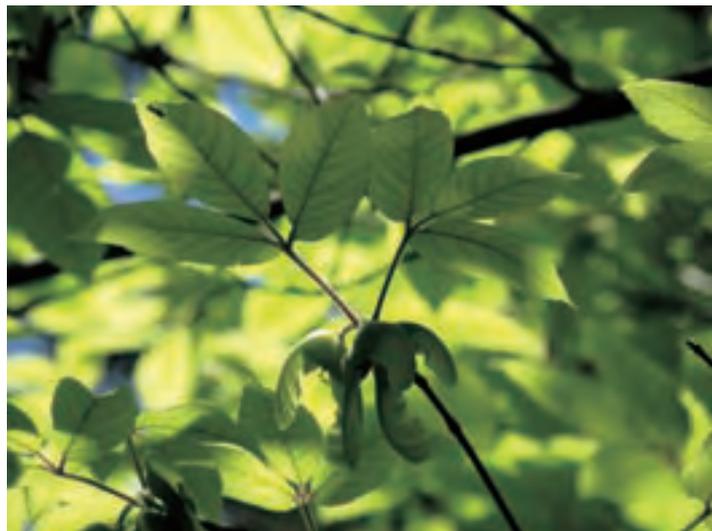
### 特記事項

和名は葉の形がカジノキに似ているためで、別名は葉が大きいオニモミジともいいます。

# メグスリノキ

【目薬の木】  
*Acer nikoense* (日光産の)

カエデ科 カエデ属



### 種の特徴

落葉高木です。花は5月に白色の花をつけます。すぐ大きな翼のある実をつけます。葉は対生で、3枚ずつつき、葉柄の長さは2～3cmで、開出します。白い毛が密生するのが特徴です。樹高は7～10m程度になります。

### 生育環境

山地の谷間や山腹に生育します。

### 国内や県内の分布

本州（宮城、山形県以南）、四国、九州に分布します。県内は全県に分布しますが、少ないです。日本固有種です。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

羽尾、倉科、冠着山に生育します。落葉樹林内に単生しています。それぞれ1個体ずつですが、高

さは5～10mの成木になっています。森林整備や間伐などによる伐採が懸念されます。

### 特記事項

和名は樹皮を煎じて洗眼薬にしたことよりつけられたと言われています。別名をチョウジャノキ（長者の木）ともいいますが語源は不明です。



絶滅危惧 I B 類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## ホタルサイコ

【螢柴胡】

*Bupleurum longiradiatum f. elatius*  
(放射状に長い) (より高い)

セリ科 ミシマサイコ属

上：萌芽時  
下：標本

## 種の特徴

山地の明るい草原に生える多年草で、葉は基部が広がって茎を抱き、表面は緑白色です。7～8月頃、茎の頂に黄色の小花を笠状につけます。草丈50～100cmになります。

## 生育環境

山地の日当たりのよい草地や林縁に生育します。

## 国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布、県内は中部、東部に多く、南部、北部に少ないです。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

森地区1箇所ではコナラの林内に2個体ほど生育しています。草原性なので、樹林繁茂などの被圧、自然遷移が絶滅の要因となっています。

## 特記事項

和名は花が黄色く、小さいので螢の光にみたて、サイコとは、この類の生薬の名を柴胡と呼んだとされたことから名づけられています。

絶滅危惧 I B 類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## ドクゼリ

【毒芹】

*Cicuta virosa* (有毒の)

セリ科 ドクゼリ属



## 種の特徴

泥地に生える大型の多年草で、地下茎は太く緑色で、竹の節のごとつしています。7～8月、白い小さな花を笠状に広げる様はレース細工のように繊細です。

茎は中空で枝を多く分けます。草丈100cm程度になります。

## 生育環境

湿地、川辺などの水湿地に生育します。

## 国内や県内の分布

北海道、本州、九州に分布し、県内は全県の湿地、流れや水辺に分布します。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

八幡・羽尾地区の2箇所のみで池の周辺などの湿

った場所に4～5個体生育しています。湖沼の整備や清掃、草刈りなどにより個体数の減少が懸念されます。

## 特記事項

和名は地下茎や根に毒成分が多いため、ドクゼリと呼ばれますが、食用となるセリより大型のため、オオゼリともよばれます。



## イワナシ

【岩梨】  
*Epigaea asiatica* (アジアの)

ツツジ科 イワナシ属



## 種の特徴

常緑の小低木です。地面を這って、茎は木質で褐色の毛が生えています。葉は柄があり、互生します。長楕円形で両面にはまばらな毛が生えています。葉質は硬くふちに褐色の刺毛があります。4～5月頃淡紅色の花を数個開きます。花径は約1cm。

## 生育環境

山地の林縁や斜面に生育しています。

## 国内や県内の分布

北海道の西南部、本州の日本海側に分布します。県内は北部、中部の多雪地帯に産します。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

猿飛池周辺や三和峠などの山地（日陰）の斜面に、10～20個体が点在しています。林道整備や土砂の崩落が絶滅危惧の要因です。

## 特記事項

果実は液果で多肉のため、甘くて食べられます。和名はこの果実の姿がナシの果実に似ていて岩場に生育することから、岩梨の名があります。

## ユキグニミツバツツジ

【雪国三葉躑躅】

*Rhododendron lagopus* var. *niphophilum*  
(ウサギの脚) (雪を好む)

ツツジ科 ツツジ属



## 種の特徴

落葉低木です。山地帯の林内に菱形の葉を3枚ずつ輪生します。5月に葉よりも先に花径3～4cm程度の紅紫色の花を漏斗状に開き、浅く5裂します。葉柄に毛がないことが特徴です。

## 生育環境

山地の林内や林縁、岩場に生育します。

## 国内や県内の分布

本州（秋田県から鳥取県の日本海側）に分布、県内は北部に多く中部は少ないです。日本固有種です。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

大林山、八幡、冠着山の3箇所のみです。針葉樹と広葉樹の混生した疎林に生育しています。

す。大林山では大群落を形成しています。森林整備や自然遷移が絶滅の要因となります。

## 特記事項

和名は日本海側の多雪地に限定して分布していることから名付けられています。



絶滅危惧 I B類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## センブリ

【千振】  
*Swertia japonica* (日本の)

リンドウ科 センブリ属



## 種の特徴

二年草で、草丈は5～30cmです。茎は直立して枝分かれます。葉は線形で幅2～5mm。花期は10月で、枝先や葉の脇に紫色の筋の入った白い花を咲かせます。

## 生育環境

日当たりの良い山野の草地に生育します。

## 国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布しますが北部では少ないです。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

三峯山麓の林道沿いや大林山山麓の道路法面に生育し、株数は比較的少ないです。薬草としての採取や自然遷移による減少が懸念されます。

## 特記事項

和名は全草がとても苦く、湯の中で1000回振って苦みを出してもまだ苦いというので千振と名付けられました。民間薬として知られ、別名トウヤクともいいます。

絶滅危惧 I B類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## タチカメバソウ

【立亀葉草】  
*Trigonotis guilielmii* (採集家ギリエルムの)

ムラサキ科 キュウリグサ属



上：タチカメバソウの群落 下：花

## 種の特徴

多年生の草本植物で、高さは20～40cmで、葉は卵形から広卵形で下方のものには長い柄があります。5～6月、枝先の花序に白色から淡青紫色の花をつけます。花序には包葉はなく、二叉に分枝します。

## 生育環境

山地の湿った林縁や草地に生育します。

## 国内や県内の分布

北海道、本州に分布、県内は全県に分布しています。日本固有種です。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

佐野川上流の湧水脇に群落を形成しています。自然遷移などにより個体数の減少が考えられます。

## 特記事項

和名は葉が亀の甲形で茎全体が直立するからということです。



絶滅危惧 I B類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## ニシキウツギ

【二色空木】  
*Weigela decora* (美しい)

スイカズラ科 タニウツギ属



(標本)

生育しています。枝分かれした2個体程度のみです。自然遷移や山林整備による絶滅が危惧されます。

### 特記事項

和名は花が白く咲いて、赤くなって散るので二色の花が咲くウツギの仲間という意味です。

### 種の特徴

落葉低木で、葉は対生します。葉柄は1cm程度で、葉の大きさは長さ6~10cm、幅は3~6cmで鋸歯があります。5~6月頃、初め白色、後は暗紅色となる花を開きます。花の長さは3cmくらい。種子には翼があります。樹高は2~3mです。

### 生育環境

山地の低木林内に生育します。

### 国内や県内の分布

本州(中部の太平洋側)、四国、九州に分布し、県内は中部、南部に分布します(千曲市は北限に近い分布地)。日本固有種です。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

大林山1箇所のみで、登山道に沿った低木林内に

絶滅危惧 I B類

長野県：準絶滅危惧 環境省：絶滅危惧 II類

## キキョウ

【桔梗】  
*Platycodon grandiflorum* (大きい花の)

キキョウ科 キキョウ属



### 特記事項

和名のキキョウとは漢名の桔梗の音読みです。蕾の時は風船のようにになっているため、英名をバルーンフラワーといいます。

### 種の特徴

草丈50~100cm程度の多年草で、時に上の方で枝分かれます。葉は狭い卵形で先は尖り長さ4~7cm。縁に鋭い鋸歯があります。花期は7~9月で、直径4~5cmの青紫色で鐘形の花を茎の頂き近くに数個つけます。

### 生育環境

低山帯の日当たりの良い草地に生育します。以前では人里の田畑の畦にも見られました。

### 国内や県内の分布

北海道から沖縄に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

大峰山山麓に自生しますが株数は3個体のみで極めて少ないです。生育地の自然遷移や草地管理の放棄による消滅が懸念されます。



絶滅危惧 I B類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## キバナノアマナ

【黄花の甘菜】  
*Gagea lutea* (黄色の)

ユリ科 キバナノアマナ属



### 種の特徴

草丈15～25cmの多年草で、葉は細長く、白い粉がふいたような緑色で、早春の4～5月にアマナに似た黄色の花を咲かせます。

### 生育環境

低山帯の草原や明るい林縁、林下に生育します。

### 国内や県内の分布

北海道から本州中部以北、西部、四国、九州には稀に分布し、県内ではほぼ全県下にわたり分布します。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

倉科・森地区で5～10個体の生育を確認しました。生育地の自然遷移による減少が懸念されます。

### 特記事項

和名は黄色い花の咲くアマナという意味ですが、アマナとは別の属です。アマナとはその鱗茎に甘味があることから付けられた名です。

絶滅危惧 I B類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## ワニグチソウ

【鱈口草】  
*Polygonatum involucreatum* (総苞のある)

ユリ科 アマドコロ属



### 種の特徴

林縁や、草原に稀に生える多年草です。5～6月頃、下方の葉のもとに短い花枝、その先に白緑色の2個の花が並んでつきます。その外側に2枚の大きな苞葉がつきます。

### 生育環境

林縁の草地に生育します。

### 国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内は全県に分布します。

### 市内の状況と絶滅危惧要因

大林山に7～8個体生育しています。山道の脇の低木の下に生育しています。登山道の整備や自然遷移（被圧）などによる個体数の減少が懸念されます。

### 特記事項

和名は2枚の苞葉を神社の鈴の鱈口に見立てたものとされています。



絶滅危惧 I B 類

長野県：絶滅危惧 I B 類 環境省：指定なし

## ヌマガヤツリ

【沼蚊帳吊】  
*Cyperus glomeratus* (球状になった)

カヤツリグサ科 カヤツリグサ属



## 種の特徴

大型の1年生単子葉植物で、茎は40~100cmになり、太いです。9~10月頃長卵形の花穂に小穂が二列に並び、長さ3~4cmになります。沼に生えるカヤツリグサと言いますが、千曲市では河川畔にのみ生育します。増水などにより、生育地が移動します。

## 生育環境

川の流れに沿う水湿地に生育します。

## 国内や県内の分布

本州(中部)に分布、県内は全県に分布しますが、分布地は少ないです。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

千曲川畔の水辺で、タコノアシと共存しています。10個体内外で、生育地の特性上、河川の増水、自然遷移による絶滅の危険性があります。

## 特記事項

和名は沼に生えるカヤツリグサの意です。カヤツリグサとは子供が茎を裂いて、蚊帳を吊る形にするとところから名付けられたと言われています。

絶滅危惧 I B 類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

## サイハイラン

【采配蘭】  
*Cremastra appendiculata* (付属物のある)

ラン科 サイハイラン属



## 種の特徴

多年草です。長楕円形で長さ15~35cm、幅3~5cmの葉を1枚付け、30~50cmの花茎を伸ばし、采配に似た淡い紅紫色の花を密に多数つけます。花期は6~7月です。

## 生育環境

低山帯の林内に生育します。

## 国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内では全県下に分布します。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

更級川、戸倉・生萱地区に生育し、株数は少ないですが、更級川の生育地では大きな株が見られます。園芸採取や生育地の自然遷移による減少が懸念されます。

## 特記事項

和名は、細く長く切れた花被片の様子が軍陣を指揮するのに使った采配に似ていることから名付けられています。



## コケイラン

【小蕙蘭】  
*Oreorchis patens* (開出の)

ラン科 コケイラン属



## 種の特徴

深山の明るい林内に生育する多年草、葉は根元に2枚、花は6～7月頃咲きます。花径は1cm程度、黄褐色で、唇弁は白に紅紫の斑点があり、茎の高さ30～50cm程度です。

## 生育環境

低山帯上部の落葉樹林内に生育します。

## 国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内は全県に分布しますが、個体数は少ないです。

## 市内の状況と絶滅危惧要因

桑原地区の佐野川の上流、低木の林床に2～3個体ずつ2箇所生育しています。自然遷移や河床の流出などの自然災害が絶滅の要因となっています。

## 特記事項

和名の蕙とはシランやガンゼキランのことで、これと葉が似ていますが花が小さいのでこの名があります。